

## 今週のテーマ

1. 一週間のまとめ
  - (1) 与党陣営の動き  
～選挙実施に向けた検討を開始～  
..... 1p
  - (2) 野党陣営の動き  
～ゴンサレス候補  
1月10日以降も外遊を継続～  
..... 2p
  - (3) 外国の動き  
～トランプ新政権 圧力強化方針か～  
..... 3p
  - (4) 今週、来週の主なイベント  
..... 4p
  - (5) 債券の元利不払い状況  
..... 5p
2. ゴンサレス候補の活動資金源  
..... 6p
3. 大統領就任宣誓日当日の野党  
..... 9p

## 債券指標の動き

4. ベネズエラ債券・経済指標の増減  
..... 11p

## カントリーリスク分析



(写真) @EdmundoGU

“ゴンサレス候補 1月10日の大統領就任日以降も外遊を継続”

## 一週間のまとめ（2025年1月12日～1月18日）

### (1) 与党陣営の動き ～選挙実施に向けた検討を開始～

マドゥロ政権は、2025年の選挙実施に向けた検討を本格的に開始している。

1月14日 与党国会のホルヘ・ロドリゲス議長は「2025年には少なくとも9回の選挙が行われる」と言及。

国会は「選挙管理委員会（CNE）」に対して、選挙実施に向けたスケジュールを提案すると述べ、議論を進めている。恐らく今月にはおおむねの選挙予定が公表されることになりそうだ。

## POINT

「国会議員選」「州知事選」「州議会議員選」「市長選」「市議会議員選」「憲法改定選挙」の6つの選挙は判明しているが、ロドリゲス国会議長は「9回の選挙を実施する」と述べており、残り3回の選挙が何を指しているのかは分からない。

なお、本格的に選挙準備を始めるために行わなければならないことが2つある。

1つ目は、CNE 役員を任命すること。

野党系の CNE 役員だったファン・カルロス・デルピノ氏が CNE 役員から解任されている。従って、選挙プロセスを始める前に新たな CNE 役員を任命する必要がある。

2つ目は、CNE のウェブサイトを開くこと。

通常、選挙に関する申請や各種手続きは、CNE のウェブサイト上で行われる。2024年7月の大統領選以降、CNE はサイバー攻撃を理由にサイトを閉じているが、然るべきタイミングでウェブサイトを再開することになるだろう。

この2点をクリアしてから選挙が実施できるようになる。

報道によると、今年予定されている9回の選挙は、2025年6月～12月にかけて行われる方向で検討が進んでいるようだ。

**(2) 野党陣営の動き ～ゴンサレス候補 1月10日以降も外遊を継続～**

前号「[カントリーリスク・レポート No.389](#)」にて紹介した通り、エドモンド・ゴンサレス候補は1月10日にベネズエラに帰国することは叶わず、大統領就任宣誓も行わなかった。

その後のゴンサレス候補の動きだが、1月14日にドミニカ共和国からグアテマラに移動し、翌15日に Bernardo Arévalo 大統領と面談。1月16日にはコスタリカに移動し、Rodrigo Chaves 大統領と面談した。

現在もコスタリカに滞在しており、1月17日には「米州機構（OAS）」人権委員会の Nancy Hernández López 判事と面談した。

来週は1月20日に米国で予定されているトランプ次期大統領の就任式に参列する予定となっている。

マドゥロ政権 年内に

9回の選挙を実施。

選挙スケジュールにつ

いて検討を開始。

ゴンサレス候補 コス

タリカ・グアテマラを

外遊。各国大統領と面

談。

## POINT

ベネズエラ国内は、マドゥロ政権が統制し続けており、現時点で特筆するような混乱は確認できていない。

1月10日当日は、今後の社会混乱を警戒し、国内の経済活動が停滞していたが、1月13日頃からは経済活動が通常に戻りつつあるようだ。

MCM氏は1月9日の抗議集会で約4カ月ぶりに大衆の前に姿を現したが、再び雲隠れしており、この1週間はメディアのインタビューにも出演しておらず、自身のソーシャルメディアアカウントでビデオメッセージを投稿するにとどまっている。

**MCM氏 再び雲隠れ。****ベネズエラ国内は通常  
の状態に戻る。**

なお、野党は「1月9日の抗議集会でMCM氏をバイクに乗せた運転手（Roalmi Alberto Cabeza氏）が警察の発砲を受けて足を負傷し、刑務所に連行された」と訴えた。

しかし、マドゥロ政権は「Cabeza氏をカラカスのホテルで拘束した」と発表。拘束時の映像を公表した。Cabeza氏は「マチャド氏の指示でホテルに隠れていた」「足は撃たれていない」と述べており、野党側の主張を否定した。

この映像の信ぴょう性については疑わしい点があるが、野党側は「この映像が偽物」と主張するに足る決定的な反論は出来ていない（[「ウィークリーレポート No.389」](#)）。

**トランプ新政権 マド  
ゥロ政権への圧力を強  
化する方向か。****(3) 外国の動き ～トランプ新政権 圧力強化方針か～**

トランプ新政権の発足まであと2日となった。

1月15日 マルコ・ルビオ次期国務長官は、ベネズエラ問題について言及。Chevronの制裁ライセンスの撤回を含めて、制裁強化を進めるべきとの見解を示した。また、Bloombergがトランプ新政権の内部関係者から得た情報として、「トランプ政権は制裁強化を進める方向で検討を進めている」と報じている（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1166」](#)）。

トランプ政権の外交関係メンバーもマドゥロ政権への圧力強化を支持するメンバーばかりで、現状維持あるいは制裁緩和を期待するのは楽観的という印象を受ける。

## （４）今週、来週の主なイベント

1月14日 マドゥロ政権は、ベネズエラにあるイタリア・フランス・オランダ大使館に対して外交官の人員を3名まで削減するよう要請。加えて、カラカスのボリバル広場を起点に40キロ以上離れた場所に移動する際は、書面にて外務省の許可を得るよう求めた。

今後、ゴンサレス候補がベネズエラに帰国する場合、ゴンサレス候補は帰国後の安全な潜伏先を確保することが必須になる。ベネズエラにある欧州の外交施設が最有力候補であり、その対策と考えられる。各国政府は、マドゥロ政権の対応を批判。報復的な措置を講じるとしている（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1165](#)」「[No.1166](#)」）。

表： 1月12日～1月18日に起きた主なイベント

日付		内容
1月	12日 日	
	13日 月	マドゥロ政権 MCM氏を乗せたバイク運転手をホテルで拘束 検察庁 ロペスVP党首を国際指名手配にかけると発表
	14日 火	マドゥロ政権 イタリア・フランス・オランダへ外交官減員を要請 マドゥロ政権 イタリア・フランス・オランダ外交官の行動を制限
	15日 水	米マルコ・ルビオ次期国務長官 ベネズエラへの経済制裁強化を支持 ゴンサレス候補 グアテマラのArévalo大統領と面談
	16日 木	ゴンサレス候補 コスタリカのChaves大統領と面談
	17日 金	ゴンサレス候補 米州機構人権委員会のNancy López判事と面談
	18日 土	マドゥロ政権 政治問題で拘束した囚人88名を解放

表： 1月19日～1月26日に予定されている主なイベント

日付		内容
1月	19日 日	
	20日 月	米国 トランプ新大統領の就任式を実施 ゴンサレス候補 トランプ大統領の就任式に参列予定
	21日 火	
	22日 水	
	23日 木	
	24日 金	
	25日 土	
	26日 日	

**(5) 債券の元利不払い状況**

表：ベネズエラ債券の債務不履行額（1月10日時点）

（単位：100万ドル）

種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
国債	国債19	19年10月13日	7.75%	4/13 10/13	2,495	1,450.2	3,945.2
	国債24	24年10月13日	8.25%	4/13 10/13	2,495	1,543.8	4,038.8
	国債25	25年4月21日	7.65%	4/21 10/21	1,600	979.2	2,579.2
	国債26	26年10月21日	11.75%	4/21 10/21	3,000	2,291.3	5,291.3
	国債23	23年7月5日	9.00%	1/5 7/5	2,000	1,440.0	3,440.0
	国債28	28年5月7日	9.25%	5/7 11/7	2,000	1,387.5	3,387.5
	国債18	18年12月1日	7.00%	6/1 12/1	1,000	560.0	1,560.0
	国債20	20年12月9日	6.00%	6/9 12/9	1,500	675.0	2,175.0
	国債34	34年1月13日	9.38%	1/31 7/13	1,500	984.4	2,484.4
	国債31	31年8月5日	11.95%	2/5 8/5	4,200	3,513.3	7,713.3
	国債18	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	300	286.1	586.1
	国債18F	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	752	717.2	1,469.2
	国債22	22年8月23日	12.75%	2/23 8/23	3,000	2,677.5	5,677.5
	国債27	27年9月15日	9.25%	3/15 9/15	4,000	2,590.0	6,590.0
	国債38	38年3月31日	7.00%	3/31 9/31	1,250	612.5	1,862.5
グレースピリオド満了未払					31,092	21,708.0	52,800.0
種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
PDVSA債	PDVSA26	26年11月15日	6.00%	5/15 11/15	4,500	2,025	6,525.0
	PDVSA24	24年5月16日	6.00%	5/16 11/16	5,000	2,250	7,250.0
	PDVSA21	21年11月17日	9.00%	5/17 11/17	2,394	1,616	4,010.0
	PDVSA35	35年5月17日	9.75%	5/17 11/17	3,000	2,194	5,193.8
	PDVSA220	22年2月17日	12.75%	2/17 8/17	3,000	2,869	5,868.8
	PDVSA27	27年4月12日	5.38%	4/12 10/12	3,000	1,209	4,209.4
	PDVSA37	37年4月12日	9.75%	4/12 10/12	1,500	1,097	2,596.9
	PDVSA22	22年10月28日	6.00%	4/28 10/28	3,000	1,440	4,440.0
	PDVSA20	20年10月27日	8.50%	4/27 10/27	1,684	1,145	2,828.8
グレースピリオド満了未払					27,078	15,844.7	42,922.5
電力債18	18年4月10日	8.50%	4/10 10/10	650.0	386.8	1,036.8	
グレースピリオド満了未払					650.0	386.8	1,036.8
合計					58,820	37,939	96,759

(出所) Av Security よりベネインベストメント作成

## POINT

1月3日から始まった  
ゴンサレス候補一行の  
外遊には3億ドル超の  
費用がかかっている？

この資金の出所の多く  
はCITGO基金か。  
加えて、ベネズエラ問  
題に利害を持つ政治・  
経済関係者も？

## 2. ゴンサレス候補の活動資金源

ゴンサレス候補は、1月3日から亡命先のスペインを離れ、自身を支持している米州各国を回っている。この外遊にはゴンサレス候補だけではなく、大勢の取り巻きも同行しており、かなりの金額になっているという。これらの資金はどこからねん出されているのだろうか？

政治と金の問題は切り離すことが出来ず、この点を理解すると今後のゴンサレス候補の動き、野党の方向も予測しやすくなる。

また、エドムンド・ゴンサレス候補は、2025年1月10日の大統領就任宣誓日にベネズエラに帰国することが叶わず、大統領就任を宣誓していない。この背景にはどのような事情があるのだろうか。

以下では、「ゴンサレス候補の活動資金源」、「現在の野党・米国の状況」について報道などで確認できている情報を紹介していきたい。

## (1) ゴンサレス候補一行 外遊の経費は3億ドル超？

今後のベネズエラ野党の活動を考える上で、彼らの活動の資金の出どころを知ることが極めて重要である。

ディオスダード・カベジョ内務司法相は、野党内部に多くの情報提供者を抱えているとされており、野党の内情はマドゥロ政権に筒抜けと言われている（もちろん情報提供者は何らかの手段で与党陣営から金銭を受け取っていることが予想される）。

カベジョ内務司法相が情報提供者から得た情報によると、ゴンサレス候補一行は今回の外遊経費として、CITGO基金から3億ドルを使用。加えて、米国リック・スコット上院議員やアントニオ・レデスマ氏（元カラカス大首都区長）と繋がりのある企業家が30万ドルを拠出する予定になっているという。

しかし、実際のところ、この資金の大半を野党関係者は着服する（より野党側に配慮した言い方をすれば、今後の政治活動費に使用する）つもりだと指摘。

## POINT

**CITGO 基金の裁量権は  
現在も VP が掌握。**

また、「MCM 氏は一連の着服について認識していない可能性がある」と補足した。

### (2) ゴンサレス候補 主要野党 (特に VP) の利害に沿う活動

野党系メディアでも指摘されているが、今回のゴンサレス候補の外遊には MCM 陣営に属する政治家が同伴しておらず、主要野党関連の政治家、特に大衆意思党 (VP) の政治家が同伴している。

本レポート1ページ目の写真は、コスタリカでゴンサレス候補が Rodrigo Chaves 大統領と面談した時の写真。ゴンサレス候補の背後にはアントニオ・レデスマ氏とイサドラ・スピジャガ氏がいる。スピジャガ氏はロペス VP 党首の右腕の1人。他の写真でもゴンサレス候補は VP 関係者と写っている。

主要野党 (特に VP) がゴンサレス  
候補の外国での活動を支援

統一プラットフォーム (PUD)  
野党統一連合 (MUD)



Vente Venezuela (VV)



マリア・コリナ・マチャド  
VV党首



第一正義党 (PJ)



ファン・パブロ・  
グアニバ PJ幹部



フリオ・ボルヘス  
PJ幹部



新時代党 (UNT)



マヌエル・ロサレス  
UNT党首、スリア州知事



オマール・バルボサ  
UNT幹部、PUD代表



エドムンド・ゴンサレス  
候補



大衆意思党 (VP)



レオポルド・ロペス  
VP党首



アントニオ・レデスマ  
元カラカス大首都区長



行動民主党 (AD)

## POINT

**VP のロペス党首は、マルコ・ルビオ次期国務長官と懇意な関係。**

**ゴンサレス候補は、資金面にも外国政府とのコネクション面でもVPの協力が不可欠。**

**ゴンサレス候補はMCM氏の代弁者ではなく、VPの代弁者になる懸念が拡大。**

この背景には「野党の活動資金は誰が握っているのか」という問題がある。特に「CITGO 基金の裁量権は誰にあるのか」は重要なポイントで、この裁量権は主要野党（統一プラットフォーム）が握っており、特に解散したグアイド暫定政権、つまりグアイド元暫定大統領が所属する VP にあるとされている。

そして、VP のレオポルド・ロペス党首は、トランプ新政権のマルコ・ルビオ次期国務長官と非常に懇意な関係にある。現在のゴンサレス候補の国外での活動は VP の影響力が強く、ゴンサレス候補は基本的に主要野党（特に VP）の協力を得なければ、活動する資金がなく、トランプ新政権へアクセスできないことを意味している。

なお、MCM 氏とロペス党首は、「マドゥロ政権と強く対峙する」という政治スタンスは共通しているが、汚職疑惑やグアイド暫定政権下での不透明な資金使用などを理由に MCM 氏はロペス党首と距離を置いており、両者の関係は良好ではない。ライバル関係にあるという言い方もできるだろう。

従って、MCM 氏はゴンサレス候補とロペス党首の関係が接近することを快く思っていないが、ゴンサレス候補が外国で活動するためには、VP の協力が不可欠であり、現在のゴンサレス候補は MCM 氏の意向に従っていないと指摘されている。

**(3) ゴンサレス候補 VP に飲み込まれるか**

周知の通り、2023年の予備選挙（大統領選の野党統一候補を決めるための選挙）では MCM 氏が圧倒的な支持を受けて勝利した。

大半の国民は、グアイド暫定政権、主要野党を拒絶し、その結果 MCM 氏に票が集まったのが実態と言える。つまり、多くの国民は主要野党に良い印象を持っていない。恐らく、2024年の大統領選で主要野党から候補者が出ていた場合、野党は普通に選挙で敗北していただろう。

前述の通り、政治と金は切り離せない問題で、政治は金がある方向に動く。

ゴンサレス候補は MCM 氏の代弁者として大統領選に出馬し、当選した（と野党は認識している）が、金も外国政府とのコネクションも VP が握っており、このままだとゴンサレス候補はロペス党首の代弁者になるのかもしれない。

## POINT

**PJのグアニパ氏 1月  
10日の野党の計画に  
ついて言及。**

**「軍部関係者らを安全  
な場所に集めて、重要  
拠点（大統領府か？）に  
向かう予定」だった。**

### 3. 大統領就任宣誓日 当日の野党

MCM氏と主要野党の関係は決して良好とは言えないが、その中でも比較的關係に近い人物が2人いる。

「第一正義党(PJ)」のファン・パブロ・グアニパ氏と「市民との出会い党(EC)」のデルサ・ソロルサノ氏である。

MCM氏は、自身と一緒に写る政治家を厳しく選ぶ人物とされているが、両名はMCM氏の大統領選キャンペーンに同行しており、大半の演説で横に並んでいる。

MCM氏は2025年1月9日の政治集会に登壇。約4カ月ぶりに大衆の前に姿を現したが、その時もMCM氏の隣に立っていた人物はグアニパ氏ただ一人だった（下写真）。グアニパ氏とソロルサノ氏は、主要野党とMCM氏をつなぐ橋渡しの役割を担っていると言える。



（写真）@MariaCorinaYA

このグアニパ氏が、野党系ジャーナリスト Carla Angoka 氏のインタビュー番組に出演し、1月10日の野党の状況について語った（「ベネズエラ・トゥデイ No.1166」）。

## POINT

**1月10日 ゴンサレス候補はパナマにて大統領就任を検討？****しかし、米国政府の許可を得られず延期。****今後トランプ新政権との協議が進めば、大統領就任を宣誓する可能性は十分にある。**

グアニパ氏の話の要約すると、1月10日の野党のプランは「MCM氏に協力する軍部関係者を安全な場所に集め、そこから重要拠点（恐らく大統領府）を目指す」というものだった。

しかし、「抑圧を克服できるほどの動員があれば、計画を実行したが、期待していたような軍の動員を得ることが出来ず、この計画はとん挫した」と説明している。

また、カベジョ内務司法相が野党の内部関係者から得た情報によると、ゴンサレス候補は1月10日にパナマにて野党国会3役（Dinorah Figuera 国会議長（PJ所属）、Marianela Fernández 第1副議長（UNT所属）、Marco Aurelio Quiñonez 第2副議長（VP所属））の前で大統領就任を宣誓することを検討していたという。

しかし、バイデン政権およびトランプ次期政権もこれを容認せず、結局ゴンサレス候補は大統領就任宣誓を延期したという。

ただし、ゴンサレス候補は引き続き大統領就任意志を示している。従って、今後トランプ政権との協議において外国で大統領就任を宣誓する可能性は十分にあるだろう。

なお、カベジョ内務司法相の情報だが、ゴンサレス候補はパナマ滞在中にホテルにて彼の妻と激しい口論をしたという。

口論の発端は、ゴンサレス候補の娘婿 Rafael Tudares 氏がマドゥロ政権に拘束されたため（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1162」](#)）。

カベジョ内務司法相は、「ゴンサレス候補の妻は、彼を一連の混乱の渦に巻き込んだ MCM 氏に強い怒りを示した」と指摘。

「ゴンサレス候補は、自身の野心により権力を失い、金を失い、家族も失うことになる」とコメントした。

## 4. ベネズエラ債券・経済指標の増減（1月17日時点）

銘柄	利率	満期	BID	ASK	平均	先週比
2018-I	13.625	2018/8/15	16.3	17.45	16.88	△ 2.17
2018-II	13.625	2018/8/15	16.25	17.8	17.03	△ 0.15
2018	7	2018/12/1	11.2	12.6	11.90	△ 3.84
2019	7.75	2019/10/13	12.3	13.55	12.93	△ 3.18
2020	6	2020/12/9	11.45	12.75	12.10	△ 3.78
2022	12.75	2022/8/23	15.55	16.85	16.20	△ 2.56
2023	9	2023/7/5	14	15.35	14.68	△ 2.81
2024	8.25	2024/10/13	13.45	14.9	14.18	△ 3.74
2025	7.65	2025/4/21	13.6	14.8	14.20	△ 2.74
2026	11.75	2026/10/21	16.2	17.3	16.75	△ 2.62
2027	9.25	2027/9/15	15.9	17	16.45	△ 3.52
2028	9.25	2028/5/7	14.1	15.45	14.78	△ 3.90
2031	11.95	2031/8/5	15.8	17.05	16.43	△ 2.23
2034	9.375	2034/1/13	16.4	17.65	17.03	△ 1.45
2038	7	2038/3/31	13.4	14.7	14.05	△ 2.60
電力債 2018	8.5	2018/4/10	5.75	7.75	6.75	0.00

	利率 %	満期	BID	ASK	平均	先週比
2020	8.5	2020/10/27	88.85	90.65	89.75	0.36
2021	9	2021/11/17	10.65	12.15	11.40	4.59
P 2022	12.75	2022/2/17	11.45	12.9	12.18	△ 2.79
D 2022(N)	6	2022/10/28	9.05	10.15	9.60	△ 0.78
V 2024	6	2024/5/16	10.45	11.7	11.08	△ 3.49
S 2026	6	2026/11/15	10.45	11.7	11.08	△ 3.49
A 2027	5.375	2027/4/12	10.5	11.85	11.18	△ 3.25
2035	9.75	2035/5/17	11.9	13.25	12.58	△ 0.79
2037	5.5	2037/4/12	10.25	11.7	10.98	△ 3.09

	百万ドル	先週比
外貨準備	10,293	0.01

為替レート	ボリ/ドル	先週比
両替テーブル	54.91	1.92
並行レート	64.71	△ 5.16

（出所）Avsecurity、ベネズエラ中央銀行、Dolarparalelo\_Oficial

## 解説

今週のベネズエラ公社債（国債・PDVSA社債）は一部を除いて先週比マイナスとなった。

理由は、マルコ・ルビオ次期国務長官のベネズエラに関する発言。

ルビオ次期国務長官は、ベネズエラについて

「現在 Chevron などは制裁ライセンスを受けており、政権の国庫に数十億の資金を供給している」「そして、（マドゥロ）政権は一切の約束を果たしていない」「従って、全ての措置を見直さなければいけない」とコメント。

外国エネルギー企業の制裁ライセンス撤回の可能性をほめかしたことで、債券価格は大きく下落した。

以上